

人間にしかできないこと

岐阜市立梅林中学校 3年

伊藤 英里

現在、私たちの生活にはAIは欠かせない存在になっています。私の家の電子レンジは、料理を取り出さないと「できていますよ」「お料理を取り出してください」と優しく伝えてくれます。プロ野球中継のプレゼント応募の電話番号に電話をかけると、「ご応募を受け付けました」と自動音声で返事をしてくれます。また、私はこのメディアコスモスに、岐阜市が運営する、AIによる自動運転のバスに乗って来たこともあります。スピードはゆっくりでしたが、安全運転で安心して乗ることができました。あまりにも便利な製品や機能はAIによる恩恵です。AIを使ったことがない、という人の方が少ないのではないのでしょうか。一方で、フェイクニュースやなりすましの画像・動画・音声によって、被害を受けている人々がいることもニュースで耳にしました。AIには良い面だけでなく、悪用することによって人を傷つけてしまう、悪い面もあるのだと知りました。また、AIが発達することによって、それまで人間が行ってきた事務的な作業や仕事が、AIに奪われてしまうかもしれません。しかし、現在私たちは、AIがないと生活が成り立ちません。一方で、時代をさかのぼってみると、人々は紀元前から戦いや災害によって様々な国が興っては滅びてを繰り返してきました。世界では産業革命、日本では高度経済成長のような時代が大きく変わる時、まだAIは存在しませんでした。AIがなくても産業が発達し得る時代と、AIが無いと生活できない現代には何の違いがあるのでしょうか。

最近、2024年の出生数が70万人を切ったというニュースを目にしました。調べてみると、私が生まれた2010年の出生数は107万人、私の母が生まれた1976年の出生数は183万人だったのです。私は少子化による人口減少の勢いにとても驚きました。AIは、この人口減少による人材不足をカバーするために、必然的に発展してきたのではないかと思います。人口の減少は、産業、医療、物流、農業など全てにおいて人材が不足し、生活に必要な食糧・サービスが得られない状況を生み出すこととなります。では、AIが全ての業種において、様々な仕事ができるようにになったら良いのでしょうか。AIは本当に、完全に人間の仕事に取って代わるのでしょうか。私は疑問に思います。

先ほどの出生数に話を戻すと、戦後1947年の出生数は267万人で、今の3.7倍、約4倍近い出生数であることが分かりました。戦後多くの方が死に、焼け野原となった状態の中、一から田畑を耕し、工業を起して必死に日本を築いてきました。そして今、私たちが存在しています。

では、今のAIに囲まれ、恵まれた環境に生きる私たちは、これからの生活をより良くしていくために、何ができるのでしょうか。AIには得意な分野とそうではない分野があります。例えば、情報を分析すること、過去の膨大なデータを学び、蓄えておくことには長けていますが、AIが人口減少を完全にストップできるわけではありません。最終的にそのような問題を解決できるのは、AIではなく、たくさんの方の力だと思います。

私は今、将来に悩んだり、勉強につまずく事があります。その度に自ら考え、時に親や友達に相談して少しずつ未来に進んでいます。悩み、迷い、時に間違える。それこそ人間にしかできないことです。AIと上手く共生するために必要なことは、私たちが考え、判断し、答えを出すことが大切だと思います。人々が作ってきた、この力強い歴史を、次の世代、また次の世代へと脈々と受け継いでいくために、自分は何ができるのか、人間にしかできないことは何かを問い続け、成長していきたいです。